

豊橋市美術博物館友の会だより-2007年-春号

Vol. 64

FU風伯HAKU

Spring 2007



豊橋市美術博物館 **新** 収蔵品展

5月29日(火)～7月15日(日) 観覧無料

9:00～17:00 月曜休館

会場●美術博物館2階展示室2～5



桑山忠明 「無題」

豊橋市美術博物館では昭和54年の開館以来、郷土の歴史と美術に関わる資料を中心に収集を行い、随時常設展示および収蔵品展等で紹介してきました。このたびの「新」収蔵品展は、平成18年度に新たに購入・寄贈された資料を紹介するもので、ほとんどの作品が当館に収蔵されてから初めての一般公開となります。昨年度は歴史部門37件(購入資料29件、寄贈資料8件)、美術部門19点(購入作品6点、寄贈作品13点)が新たに加わりました。

美術資料では、和田英作の知立風景や、北川民次のメキシコ滞在期の異色作(8pに掲載)をはじめ、近代彫刻を代表する柳原義達(道標・鳩)や桑山忠明のカラーフィールド・ペインティングなどをご紹介します。一枚の板の両面に描かれた河野通勢の作品(表は大正期の横浜風景、裏はダンスホールを描く)も見所のひとつです。また、平川敏夫や畑遼らの寄贈作品を展示するとともに、昨年逝去した書家・石川雲鶴の遺作を展覧します。

歴史資料では、旧吉田藩士家に伝わった弓術や剣術の伝書類、明治以降の三河や豊橋地域の地図類などを購入したほか、本坂道嵩山宿の古文書、豊川鉄道関係の写真、郷土画人稲田文笠・杉山呉洲らの資料、絵葉書、マッチ箱などの寄贈をいただきました。これら新収蔵資料を、「東三河・豊橋の地図」「吉田藩士の活動」「豊橋の道と川」「軍都としての豊橋」「豊橋の文化活動～和歌と絵画～」「絵葉書と広告」などのテーマに沿ってご紹介します。



マッチ箱コレクションより

本陣開設200年記念 **二川宿本陣馬場家展**

5月19日(土)～7月8日(日) 9:30～17:00(入館は16:30まで) 月曜休館

会場●二川宿本陣資料館

本年は、二川宿本陣馬場家が文化4年(1807)に本陣職を始めてから200年となります。これを記念して、二川宿本陣馬場家に伝来する古文書や屏風・掛け軸といった調度品を紹介し、江戸時代の本陣の様子に迫ります。

本陣には利用者を記録した宿帳33冊があり、愛知県有形民俗文化財に指定されています。また、本陣では高貴な者の休泊に備えて接客用に調度品が用意され、利用者からは様々な拝領品が本陣へもたらされました。

江戸時代に大名の宿であった本陣は、東海道筋では豊橋市と滋賀県草津市の2ヶ所のみに残存する貴重な文化遺産です。この機会に全国屈指の「本陣資料」をご鑑賞いただき、往時の文化や、人々の往来といった江戸時代の交通に思いをはせていただければ幸いです。



二川宿本陣宿帳

二川宿史料第2集「二川宿本陣宿帳I」発売のお知らせ

二川宿本陣宿帳33冊のうち、「御宮・公家」「寺院」「御三家」「御公儀」の5冊を翻刻します。江戸時代の交通制度や地域の歴史を探る上で重要な情報が満載です。

◎体裁 A5判 800頁 上製本・箱入

◎価格 2,000円

◎販売場所 二川宿本陣資料館・美術博物館・市役所じょうほうひろば

◎販売部数 600部

「ヨーロッパ絵画名作展」に寄せて

山寺 後藤美術館館長 後藤 季次郎

私どもの美術館は、平成6年(1994)4月28日、歴史と景勝の地、山形市山寺に開館いたしました。

元禄2年(1689)松尾芭蕉は「奥の細道」の旅へと、江戸深川を後にします。尾花沢から酒田への途中、天台宗の古刹「立石寺」(山寺)に寄り、「閑さや岩にしみ入る蟬の声」の句を詠んでいます。

当館は西洋美術が中心ですが、山寺周辺の景観と既存の建物との調和を考え、白壁と面格子の和風の建物になっています。

展示室の広さは約660平方メートルで、絵画の展示室には、フランスを中心とした、17世紀古典主義、18世紀ロココから19世紀アカデミズム、コロー、ルソー、ミレーなどを中心としたバルビゾン派の画家たちやイタリア、スペイン、イギリスなど他のヨーロッパ諸国の画家の絵画も幅広く展示しております。

別室には、ガレ、ドーム、ミューラーなどアール・ヌーボーの華やかなガラス工芸品の展示室もあります。

私は山形県西村山郡河北町の出身です。昭和24年、18歳の時上京しましたが、戦後の復興期で就職難、食糧難と、皆生きるのが精一杯という時代でした。

私と絵の出会いとは、と問われれば、見たり描いたりすることが子供の頃より好きであったということでしょうか。上京後はそのような時間の余裕はありませんでした。美術館や展覧会場を巡るようになったのは、しばらく後になってからです。

いろいろな絵に出会いましたが、最初に惹かれたのは風景画でした。森や田園を描き続けた画家たちには特に惹かれるものがありました。それは故郷、田舎の風景につながるものであり、私自身の原風景であったのかも知れません。自然は人間にとって共存すべき友達なのだ、と絵で繰り返し訴えた画家たちには、大袈裟ですが励まされ勇気づけられたような気がしました。美術館で自然の美しさを発見し、教えられました。後にその画家たちが「バルビゾン派」と呼ばれていることを知りました。

そのような経緯から徐々に作品を収集するようになりますが、やはり初めの頃は「バルビゾンの七星」といわれたコロー、ディアズ、トロワイオン、デュブレ、ルソー、ミレー、ドービニーなど、森や田園

を描いた画家の作品が中心でした。やがてアカデミックな古典主義や華やかなロココの絵画なども収集するようになります。

私は上京後、仕事との関連で華やかで煌くものにも興味がありました。

アール・ヌーボーの作品も含め、そのような眼で収集した作品も多数あると思います。また私は大きな作品が好きで、個人コレクションとして、よくこのような大作を所蔵されたとお褒めの言葉を頂くこともありますし、自負もしております。ただし、額縁は重く、展示作業に関わる皆様には大変ご苦勞なことと思われまます。

山寺には、年間約70万人の観光客が訪れます。当館の展望休憩室の窓からは、仙山線と立谷川の向こう側に山寺が一望でき、四季折々の自然と眺望が見事です。これからは新緑が見頃になります。また当館の向かいには「山寺芭蕉記念館」と隣接し、観光施設「山寺風雅の国」などもあります。

この度、豊橋市美術博物館におかれまして、山寺後藤美術館所蔵「ヨーロッパ絵画名作展」を開催させていただくことになりました。深く感謝申し上げます。多くの市民の皆様方にご鑑賞いただける事、祈念申し上げます。

後藤季次郎(ごとう・すえじろう)氏 プロフィール

昭和6年、山形県西村山郡河北町に生まれる。24年、上京。株式会社梶田に入社。31年、後藤季次郎商店として独立。48年、株式会社後藤を設立、代表取締役役に就任。57年、ホテルニューオオタニにジュエリー・エスジーを出店。以後、東京ヒルトン、帝国ホテル、インベリアルプラザ大阪などへ出店、現在に至る。平成6年、山形市山寺にバルビゾン派を中心とするヨーロッパ絵画やアール・ヌーボーのガラス工芸作品、彫刻作品など約700点を収蔵する山寺・後藤美術館を開設。平成16年より、明石市立文化博物館、島根県立美術館、愛媛県立美術館、うらわ美術館など全国で同館所蔵品による「ヨーロッパ絵画名作展」を開催。



山寺・後藤美術館所蔵 ヨーロッパ絵画名作展 ～宮廷絵画からバルビゾン派へ～ ただいま開催中～6月3日まで

山々の間に深い溪谷が横たわる景色を車窓から眺めつつ、仙台駅から仙山線で約1時間。山寺駅に降り立つと、厳然と、天高く岩山がそびえる絶景が目の前に広がります。千段以上もの石段が山頂へと続き、そこに立石寺(通称・山寺)は鎮座しています。860年創建のこの古刹は、芭蕉が「閑さや岩にしみ入る蟬の声」の句を詠んだことでも知られています。



立石寺遠景



山寺・後藤美術館

日本屈指の西洋絵画コレクションを誇る山寺・後藤美術館は、線路と川を隔て、

この寺と対面するように小高い丘の上に建てられています。本展は、同館の約700点の所蔵品の中から、17～19世紀のヨーロッパ絵画78点を選び紹介するものです。この機会をお見逃しのないよう、ぜひお出かけください。



館内

◆第1章◆宮廷絵画からアカデミスムへ

ロココ美術を代表するブーシェ、ナティエなどルイ15世の庇護を受けた画家が描いた肖像画や、国立絵画彫刻アカデミーに学び新古典主義の作風を受け継いでサロンで活躍したカバネル、ブーグローなどの歴史画、風俗画などを紹介しています。

ナティエの《落ちついた青色の服》では、貴婦人が神話に登場する叙情詩の女神エラト(美と豊穡の女神ヴィーナスとする説もある)に扮し、巻紙と豎琴を手に優雅に微笑んでいます。こうした「扮装肖像画」は、モデルの美や知性を讃美するものとして、当時貴族の間で人気を博しました。ルーブル美術館にも別の婦人をモデルにした同じ構図の作品が収蔵されています。

ジャン＝マルク・ナティエ
《落ちついた青色の服》1746年

◆第2章◆バルビゾン派とその周辺

1830年代以降、パリの南東約60キロに位置する小村バルビゾンに集い、制作を行った画家たちの一群を「バルビゾン派」と呼びます。なかでも、ルソー、ミレー、コロ、ディアズ、デュブレ、トロワイヨン、ドービニーはその核となった画家で、「バルビゾンの七星」といわれます。本展の約半数はバルビゾン派とその周辺

テオドール・ルソー
《ノルマンディーの風景》1832～33年頃

画家の作品であり、これほど充実したバルビゾン派作品の公開は当館では初めてのことです。

ルソーはいち早くバルビゾン村に住み着いた画家でした。《ノルマンディーの風景》は、ルソーが20歳前後の1832～33年頃に描かれた作品です。空想上の理想的風景ではなく、戸外での写生を忠実に生かした、当時としては非常に斬新な風景画を制作しました。空と地上とをつなぎとめるドラマティックな光の表現には、オランダ風景画の巨匠・ロイスダールの影響もうかがえます。

◆第3章◆ヨーロッパ諸国の絵画

イギリスのターナー、コンスタブル、ミレイ、スペインのムリーリョ、オランダのロイスダールほかイタリア、ドイツなどヨーロッパ諸国の同時代の画家たちの作品を紹介しています。

バルトロメー・ムリーリョ
《悲しみの聖母》

ムリーリョは、リベラ、スルバランなどととも17世紀スペインのバロック美術を代表する画家の一人です。生涯に描いた作品の9割は宗教画・聖人画であったといわれています。マリア崇拝を重要視した反宗教改革の時代に生まれ、数多くのマリア像を描いたことから「マリアの画家」とも呼ばれています。《悲しみの聖母》(表紙作品)では、磔刑に処せられたわが子・キリストの姿を見上げ悲嘆に暮れる聖母が、バロック美術特有の明暗描法により劇的に描かれています。こうした聖人画の多くは、布教のために教会から注文されたものでした。

(豊橋市美術博物館学芸員 岡田巨世)

野田弘志展 ～写実の彼方に～

7月28日(土)～9月2日(日) ＊月曜日休館、ただし8月13日(月)は開館します。

最近、サミットの開催地として、にわかに注目を集めているウィンザーホテルを洞爺湖の対岸に臨む北海道有珠郡壮瞥町に、住居兼アトリエを構える野田弘志氏は、迫真的な細密描写によるリアリズムの作家として内外に認められ、その画世界は70歳を越えていよいよ研ぎ澄まされています。

多感な中学・高校時代を豊橋で過ごすなど当地方とも縁のあることから、昨年5月に開催した北海道研修旅行(友の会主催)では、アトリエを訪問させていただき、座談会などを通じて親交を深めました。



《北の海のやどかり》1983年

このたび豊橋市美術博物館では、北海道立近代美術館やひろしま美術館などと協働して、野田弘志氏の全画業を紹介する大規模な企画展を開催することになりました。札幌市と広島市では初の回顧展となり、当館では1988年の「明晰なる神秘～野田弘志展」以来、20年ぶりの開催となります。

黒の背景が神秘的な1970年代を「黒の時代」として、リアルな静物や人物をメインに実際の背景を克明に描いた1980年代を「実在感への回帰」として紹介するほか、雄大な北海道の自然を中心とした「風景」、生と死を観想した1990年代の「TOKIJIKU」やそこに在るモノ(裸婦や縄など)を堅実に表現した2000年以降も続く「THE」シリーズ、一貫してモチーフの主軸を構成した「静物」、そして画家の繊細な資質が存分に発揮された「鉛筆画と水彩画」という7つの章を設定し、厳選した秀作90点を全館挙げて展示いたします。

規模・内容ともにバージョンアップした野田弘志の世界をじっくりとご堪能いただき、ゆるぎない“存在感”を希求し続けた作家が、写実のむこうに何を視たのか…。その答えをあなた自身の目でしっかりと確かめください。

(豊橋市美術博物館 主任学芸員 大野俊治)

“野田弘志の世界”をより深く鑑賞するために～

土曜サロン「リアリズムの画家たち」を開催します！

●日時 8月4日(土) 午後1時30分～2時30分 ●場所 美術博物館 講義室

●講師 野田弘志氏

*友の会会員限定の特別企画です。申込みは不要です。直接お出かけください。



《やませみ》1971年



《和香子》1983年



《TOKIJIKU(非時) 双 Wing》1993年

ミニ・コンサート 絵画からのインスピレーション

●6月1日(金) 午後6時30分～ ●場所 美術博物館エントランス・ホール

芸術の世界は縦横に繋がっています。絵画も彫刻も音楽も、全て心を表現する大切な世界です。その共通の世界を豊橋市美術博物館で体感できてしまう、そんな素敵なひとときを、友の会会員の方々にお楽しみいただける音楽企画が今年もあります。

山寺・後藤美術館所蔵「ヨーロッパ絵画名作展」にあわせ、音楽家集団ムースタジオを主宰する大竹広治理事が、展示作品から数点を選び、その絵画から受けるインスピレーションと相重なる曲を厳選してお届けいたします。また、昨年開催し大変好評でした美術博物館裏庭でのコンサート「森のなかの音楽会」、こちらも芸術の秋の空気につつまれながら美術博物館を満喫していただけるように案を練っております。耳から感じる色彩の世界、どうぞお楽しみに。

【申込方法】5/23(水)より受付します。お電話でお申し込みください。(TEL.51-2882)

■ 印象に残るこの一点

友から友へ Members to Members

心に残っている一枚の絵

石川 百代 (1223)



私の心に残っている一枚の絵は、現在行方知れずの堂本印象の海の絵です。40年以上前のことです。叔母は脱サラをした夫と共に東京・京橋で画廊を営んでおりました。叔母は押し売りで、唐草模様風の風呂敷に包み（まるで東京ぼん太さん!!）、堂本印象の海の絵と或る有名な画家のバラの油絵の2枚を持って我が家に来たのです。

父は海の絵の方が気に入って、購入しました。佐渡の荒波を感じさせる、力強い男性的な海の絵でした。この絵は2つの夫婦喧嘩の原因となりました。最初は買った直後のことです。母は無駄遣いであると怒って夫婦喧嘩となり、次は

兄夫婦です。兄嫁はその絵を片付け、行方知れずとしてしまったのです。兄は亡き父が大切にしていた絵を無くしてしまったと怒り、大変残念がっておりました。

絵はそこから何らかを感じずる者だけに価値を見出せるものであり、それを感じない、又感じようとしぬ者には廃棄物と同様になります。危うく、儂いものであると思います。漢字を見ると美とは羊が大きいと書き、かつて中国では羊が大きいことが美であったと言われています。経済的な豊かさをもたらす美から、今では精神的な豊かさをもたらす美へと変化しました。美は我々の気まぐれな嗜好の犠牲になっているような感じもいたします。

堂本印象の絵は時折美術館で鑑賞しますが、父との接点の一つであり、また父や母、そして唐草模様風の風呂敷を抱いていた頃の叔母を思い出させます。

香月泰男のシベリア

河合 利夫 (948)



2年近く前、香月泰男展を静岡まで見に行った。以前、山陰を旅することがあって三隅町の香月美術館へも寄ろうとしたが、津和野まで行って帰って来てしまった。

「護」と名づけられた壁の絵は3年前モロッコのマラケシュのスクで見た古い壁に似ていた。香月は1942年満州に配属、終戦でシベリアに抑留され、1947年5月に復員した。香月はシベリア抑留体験をもとに、1967年「画集シベリア」を発表した。その画群のなかでも「涅槃」や「復員」など、虜囚たちのシベリア抑留のことを思うと、絶句

して言葉にならなかった。「朝陽」の太陽はぶらさがっているような、浮いているような、黒い空に、不安定だが、どっしりと、どこか太ましいまでの生命感が漂っていた。

香月はシベリアで真に絵を描くことを学んだのだと云い、描いた絵の評価、画家としての名声、そんなことは一切無関係に私はただ無性に絵が描きたかった、描くたびにこんなものではとてもオレのシベリアを語りつくしたことになる、とも云っている。

「雪の海」は黒い真暗な空と海、真暗の海に怒涛が幾重にもかさなり押し寄せ、上空の漆黒の間から雪がなだれるように降っていた。水平線あたりはうっすらと明るく描いていた。その海のかなたにシベリアがあるのだ。香月はシベリアで決心したとおりの三隅で生涯を終えた。

人生に豊かさと深みを

足立 きよ子 (972)



絵画を見る、個々の差別なくよく見る。好きであるから。作者は誰それ、というのみで専門的な知識があるわけでもない私です。どうして絵にひかれるのか？自分の心の奥底に秘めやかに忍び込む「美」に対する憧れと、それと同時に、自己満足に酔いしれて我を忘れるひととき。絵画の一筆一筆に心が揺らめき、躍る、もう一人

の私の命の鼓動！そのためだけに我が家を旅立つ。一足一足をそのひとつに向かって焦点を定めるのです。

雪深き里に生まれた私、新し物好きな伯父が帰郷した折に大切に持ち帰った包み、それは2枚の絵でした。幼少の

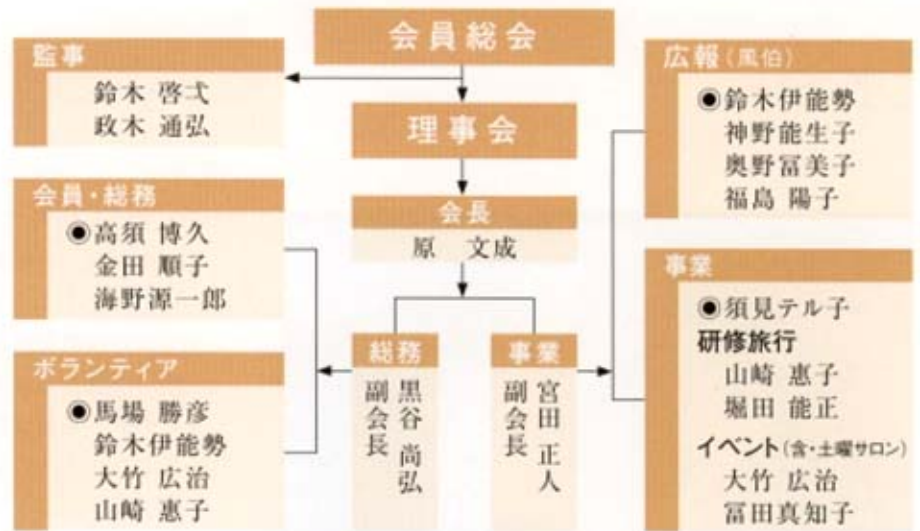
私には、1枚は絵本の物語の絵のように見え、「何がいの？ 汽車の中にさまざまな格好の人がいるだけなのに」。伯父は「絵画とはただ描くだけでなく、観る者にその人物の心が伝わってくるようではなくては駄目だ」。それは〈夜汽車〉という題で赤松麟作の作。他の1枚は花飾りの帽子をつけた穏やかな外国人の女性がベンチに座る作品で、マネ作と記憶しています。9歳になったばかりの私は、大人になったらあの様に着飾ってみたいと夢を膨らませたものですが、今に至っても実現できずにいます。

絵画を見ること、旅に出ること、未知の世界に想いは悦楽の浄土へと誘われる。絵を見る幸せのひとつ、許される限り、高ぶる鼓動を感じ続けたい。いつまでも少女のような穢れない透明の光と影に、忬怩たる思いをよせながら。

友の会組織図

平成19年度の友の会組織は、右に掲げる形で運営されます。皆様のご協力を得て、円滑で活動的な運営を心がけたいと思います。

ボランティア活動は広報・研修旅行・イベントなど友の会の全事業にわたっており会員の皆様のご参加を待っております。ご希望の方は窓口にてお申込みください。



こんにちは よろしく! この春、人事異動により新たに美術博物館・二川宿本陣資料館にこられたスタッフをご紹介します。

| 氏名・所属 | 趣味・好きな芸術家等 | 友の会へ一言 |
|---|---|--|
|  牧野 哲也 <small>(まきの・てつや)</small> 美術博物館 事務長補佐 | サッカー観戦、無理してマラソンに出場し途中で救護車に乗せられること。 横尾忠則(02年東京都現代美術館で「横尾忠則・森羅万象」展に感激、終日鑑賞。) | 市民から愛される美術博物館を目指していきたいと考えます。友の会の皆様のお力をお貸しいたしますようお願い申し上げます。 |
|  鈴木 宏始 <small>(すずき・ひろし)</small> 美術博物館 管理文化財グループ主査 | 山歩き 特にありません | 入会の動機は忘れましたが、平成4年から会員です。特別な知識・技術は持ち合わせていませんが、より良い施設運営に努力いたしますので、ご指導のほどよろしくお願ひします。 |
|  大林 美香 <small>(おおばやし・みか)</small> 美術博物館 管理文化財グループ | 編み物 東山魁夷やモネの風景画が好きです。 | 今年は神戸や名古屋の美術展へ行ったり、春から開催される絵画展の前売り券を2件購入した直後に美術博物館への異動が決まりました。今年は文化的な年になりそうです。至りませんがよろしくお願ひいたします。 |
|  鈴木 康夫 <small>(すずき・やすお)</small> 美術博物館 歴史担当嘱託員 | 旅、庭園・仏像の鑑賞 尾形光琳、琳派 | 教員生活を終え、4月から美術博物館でお世話になることになりました。今、収蔵庫内の古文書の整理をしています。宝永2年(1705)西十月の免状に接して力強くやや強圧的な文言に時代の息吹を感じています。オリジナルに触れ感性を磨いて新たな世界を拓いていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。 |
|  高橋 和成 <small>(たかはし・かずなり)</small> 美術博物館 文化財担当嘱託員 | サッカー(好きなチーム/イベント、好きな選手/デルピエロ)、読書(好きな作家/ヨースタイン・ゴルデル、高橋克彦) ビントゥリッキオ | 今年度は牟呂の発掘現場に出ていますので、美術博物館ではなかなかお目にかかれないかと思ひますが、色々積極的に参加していきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。また、美術に関しては全くの素人ですので、ご指導の方も併せてお願ひ致します。 |
|  小林 一弘 <small>(こばやし・かずひろ)</small> 二川宿本陣資料館 館長 | 旅行、畑仕事 特にありませんが、歴史的遺物には興味があります。 | 歴史的な雰囲気にあこがれて二川宿本陣資料館へまいりました。好奇心を満たしてくれるものを求めてがんばりたいと思ひます。 |

友の会新理事紹介

| | | | |
|--|---|--|--|
|  堀田 能正 <small>(ほった・よしまさ)</small> 株日の丸薬局 | 趣味・旅行、ビデオ撮影、剣道など 自然の姿に心引かれてカメラ片手に世界各地を旅行。ビデオが趣味。 |  海野 源一郎 <small>(うんの・げんいちろう)</small> 中部ガス社史編纂室 | 趣味・日曜りの山歩き 歳をとるにつれて絵画鑑賞に対する関心が強くなり、最近では美術へも毎月足を運ぶようになりました。その度に新しい発見があるのですが、これから皆さんと一緒に色々体験勉強させて貰える機会が増えることを楽しみにしています。 |
|--|---|--|--|

収蔵品紹介

[水浴]

北川 民次 ●KITAGAWA, Tamiji

昭和7年(1932) 麻布・テンペラ
60.6cm × 50.0cm

北川民次がアメリカのオレゴン州に在住した兄を頼って渡米したのは大正3年である。翌年にはニューヨークに移り、大正7年よりアート・スチューデントズ・リーグ夜間クラスでジョン・スローンに学んだ。大正10年メキシコに移住。以後、国立美術学校に学び、トラムバムやタスコの野外美術学校で児童教育にたずさわるとともに、昭和11年に帰国するまで現地の風物をモデルに制作を行った。

本作品もそうしたメキシコ時代の1点である。セザンヌやゴーギャンに傾倒した民次はこの時代、多くの水浴図に取り

組んでいるが、いずれも褐色の肌のインディオ女性を描き、若さや澁刺とした健康美を讀えたものであった。一方、本作品の白い肌をした女性の平面的な面差しと姿態は、裸身に恥じ入る同胞女性を思わせる。デフォルメされてはいるが、乳房や下腹の皮膚が弛んだ様子は生々しく、右の女性の髪や耳の無い頭部は異様ですらある。さらに2人の裸婦を飲み込むかのように泉が渦を巻き(メキシコの古代遺跡にしばしばみられる人身御供を行ったセノーテといわれる丸い聖なる泉を彷彿させる)、周囲の木立は伐採された生々しい断面を見せ、右手には茂みが洞のように渦を巻く。生命賞賛として描かるべき水浴裸婦図とはかけ離れたものであるが、ヌルリとした女性の形質を水と同質のものとしてとらえているのかもしれない。

また、テンペラで描かれた陶器のような肌、同年メキシコを訪問していた藤田嗣治の影響も指摘されている。藤田のメキシコ入りは11月であり、年内に民次と出会った可能性は高くはないが(翌年の出会いは記録されている)、藤田は大正15年にパリでトラムバム野外美術学校校長ヤリベラなどから民次の存在を知らされており、すでに両者の交流があったとも考えられる(児童画とともに民次の作品を見た藤田は「私はピカソ等と驚嘆の目を見張って賞賛した」と語っている/「北川民次画伯メキシコ作品展カタログ」1937年)。

民次の画業の中では異質な作品であるが、ややグロテスクな傾向を帯びた幻想的な志向は以後の画業でもしばしば見受けられ、メキシコ時代の貴重な作例といえるだろう。本作は「欧米に魅せられた画家たち」展(～5月20日)に引き続き、「新」収蔵品展(5月29日～7月15日)にて展示を行う。

(豊橋市美術博物館学芸員 丸地加奈子)

編集後記

美術品を見る前に、いつも期待する。それを見た瞬間に、どれだけ私の心を揺さぶってくれるか。想像力がどれだけ駆り立てられ、その前で立ち尽すことが出来るかと。見るのは確かに私の目、でも感じるのは私の脳、私の心。見た瞬間、心のどこが動き出すのかが、私の楽しみ。今まで感じてきたオーラと、それに纏わる知識と情報が、鑑賞する時の大切なもの。「風伯」があなたに少しでも役に立ちますように。「悲しみの聖母」は何を語りかけましたか。何が心に浮かびましたか。(鈴木伊能勢)

豊橋市美術博物館 友の会だより「風伯」第64号

編集・発行 豊橋市美術博物館友の会

会長 原文成

担当副会長 宮田正人

編集長 鈴木伊能勢

編集委員 神野能生子 奥野富美子 福島陽子

〒440-0801 豊橋市今横町3-1 TEL.0532-51-2882

平成19年5月20日発行(5月・8月・11月・2月各20日発行)

平成10年3月17日 第3種郵便物認可 定価200円

※会員は会費に含まれます。※定価には消費税が含まれます。

【表紙作品】

《悲しみの聖母》(部分) 油彩・カンヴァス

バルトロメー・ムリーヨ

山寺・後藤美術館所蔵「ヨーロッパ絵画名作展」より